



聖徳太子の時代からの日本文化を守り、
燃え尽きるまで多くの人と関わり
花とともに楽しく過ごしていきたい

なでしこ力

Power of Nadeshiko

初代は小野妹子とされる池坊。現在、全国に5万人以上の会員を持つ一般財団法人で、理事は15人。そのうちの一人が脇田節子さん（名古屋市在住）である。京都の本部には会議や勉強のために赴き、文化庁と連携し地元での「こどもいけばな教室」の開催を続ける。80歳の今も精力的に働き続けるのは、聖徳太子の時代からの日本文化を守ろうとする人が減り続けている危機感からだった。

5万人以上の組織の理事として

脇田さんの現在の仕事は、師範資格を持つ後進の育成が中心。お弟子さんは50人。京都本部には、池坊華道会理事として重要な会議のためだけでなく、また勉強のためにも赴く。加えて中部3県のトップとして「池坊中部三県連合花展」の企画運営を行い、会場選び、会場規模に合わせての図面ひき、作品のレイアウトまでを一手に引き受ける。「専門業者に一任すれば簡単ですが、それだけ出瓶（しゅっぺい）者の費用負担が増えて参加しづらくなるので」と自身が動き回る。

9月に松坂屋名古屋店で開催された「いけばなの根源 池坊展～華の軌跡」を担当したのは中部3県内の23支部会員だ。6日間の会期ながら毎回2万人以上が訪れる名古屋最大の花展で、脇田さんは本部の理事でもあるため、半年以上前から準備に奔走。今年も自分の作品も出瓶し、開催当日も会場で関係者の来場に対応した。

まさに八面六臂の活躍だが、脇田さんは「本部職員が優秀ですから、大規模の花展を日本各所で開催できるのです」と語る。「職員は生半可な気持ちで仕事をやっていませ

ん。自国の文化を大事にしようという強い気持ちを持ちながら仕事に臨んでいます」。

池坊華道会は組織がしっかりしており、本部の下に理事15人、評議員30人、その下に全国400支部がある。東海エリアには、愛知、岐阜、三重で23支部あり、定期的に会議を開催している。

日本文化の現状に強い危機感

「でも最近では激変しました」と脇田さん。日本文化を囲む状況の変化に、池坊華道会が強い危機感を感じるようになった。15年前には30万人だった本部登録者（会員）は大きく減った。「華道を習う人が減り、教える側の経済的な事情も出てきています。作品にはその人となりが必要ですが、作品を見ると作者が驕り過ぎて、訴



前回の中部三県連合花展愛知大会では大村知事が来臨